

安全なまちづくりに関する団体向けアンケート

結果分析報告書

2026（令和8）年7月

四日市市

調査の概要

だれもが安全で安心して生活できる地域社会の実現に向けて、地域の安全に関する活動団体に対し、団体の活動状況や防犯意識などについておたずねし、「四日市市安全なまちづくり条例」に基づく基本計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的として、アンケート調査を実施した。

（２）調査期間

令和７年１２月１９日（金）～令和８年１月１６日（金）

（３）調査方法

市内にある防犯活動団体、交通安全協議会、地区補導団体代表者会の計１３３団体を対象に、紙の調査票またはインターネットでの調査を実施した。

（４）配布数・回収数

発送数	１３３通
回収数	９４件
回収率	７０．７％

（５）本報告書における注意事項

- 図中の構成比（％）は、小数点以下第２位を四捨五入して算出している。そのため構成比をそのまま合計しても、必ずしも合計が１００％にならない場合がある。
- 表、グラフ等の見出し及び文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものもある。
- 回答率の母数は、原則としてその質問の回答者数であり、表、グラフ内では「 $n = \bigcirc\bigcirc$ 」と表示している。
- 以降の結果において、特に記載のない場合は、１つのみ回答の設問である。
- 回収数が少ないため、本結果の数値や分析は参考程度に扱う必要がある。

調査の結果（概要）

【団体の活動状況について】

- ◆ **防犯パトロールや児童生徒の通学時の見守りをしている団体が多いです。**活動頻度は、月に1～2回程度が35.1%、ほぼ毎日活動している団体が27.7%などです。(p.5～6)
- ◆ 会員の平均年齢が60代以上の団体の回答が多いこともあり、**会員の高齢化や不足**を活動の課題に挙げている団体が多くなっています。また、活動が地域に浸透していないことや、活動内容がマンネリ化していることなど、**活動内容自体に課題を感じている団体**もあります。(p.6)

【団体の防犯意識について】

- ◆ 安全に関する情報の入手媒体として、広報よっかいち、安全安心防災メール、回覧板、新聞などでの情報の入手が多くなっています。また、市主催の講座や講演会、日常会話、インターネットで情報を入手している団体もあり、**多種多様な媒体での情報入手が可能となってきた**状況が伺えます。一方で、情報を入手していない団体からは、情報提供が少ないことが理由として主に挙げられており、**情報の充実度に課題がある**と感じていることが伺えます。(p.7～8)

【団体の活動地域の防犯に関する環境について】

- ◆ この10年間での治安については、良くなったと思う団体が8割ほどです。理由を見ると、**防犯カメラや外灯などの環境整備、防犯活動や情報の提供が充実してきている**と感じている団体が多くいることが伺えます。(p.9～10)
- ◆ 安全なまちづくりに向けて、環境整備とともに、住民同士のつながりや地域での見守り活動、空き家・空き地の管理など、**地域全体で防犯意識を高めることに必要性を感じている団体が多いです。**(p.10)

【団体の活動地域の交通安全について】

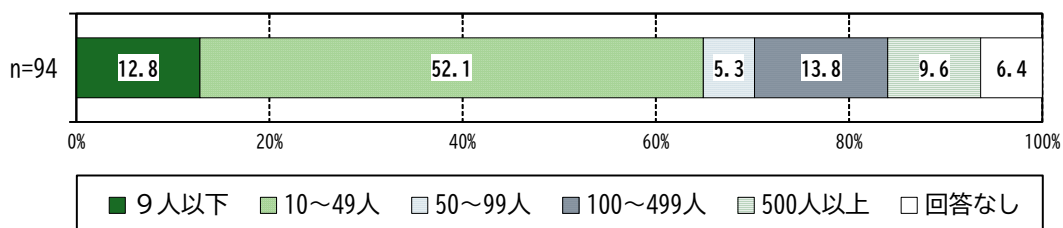
- ◆ この10年間での交通安全環境の状況については、良くなったと思う団体が7割ほどです。**歩道やガードレール等、道路の整備が進んでいることや、見守り活動が活発になっている**ことを、交通安全環境の状況の良さの理由に挙げている団体が多くいます。一方で、通学路や生活道路の整備・管理が不十分だと感じている団体もあり、**ハード面での整備が行き届いていない**と感じていることが伺えます。(p.11～12)
- ◆ 交通事故のない安全なまちに向けて、道路環境の整備及び改善が必要と考える団体が最も多いです。また、交通安全教育・啓発の充実や、交通マナー・ルールの周知などを必要と感じる団体も多くあり、**ハード面とソフト面の双方からのアプローチが必要**ということが伺えます。(p.13)

調査の結果

【団体の活動状況について】

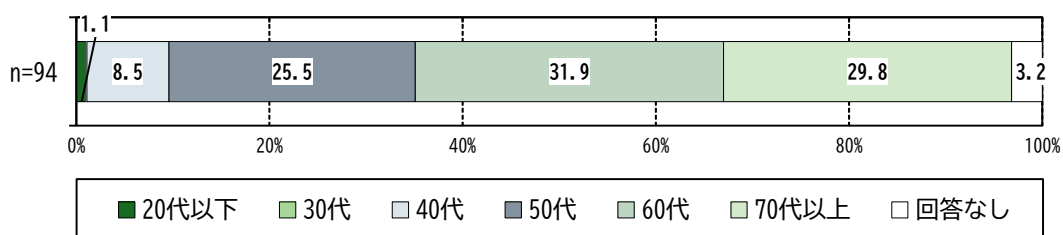
問 1 (1) 会員数

- 「10 人～49 人」が 52.1%と最も高く、次いで「100 人～499 人」(13.8%)、「9 人以下」(12.8%) などとなっています。



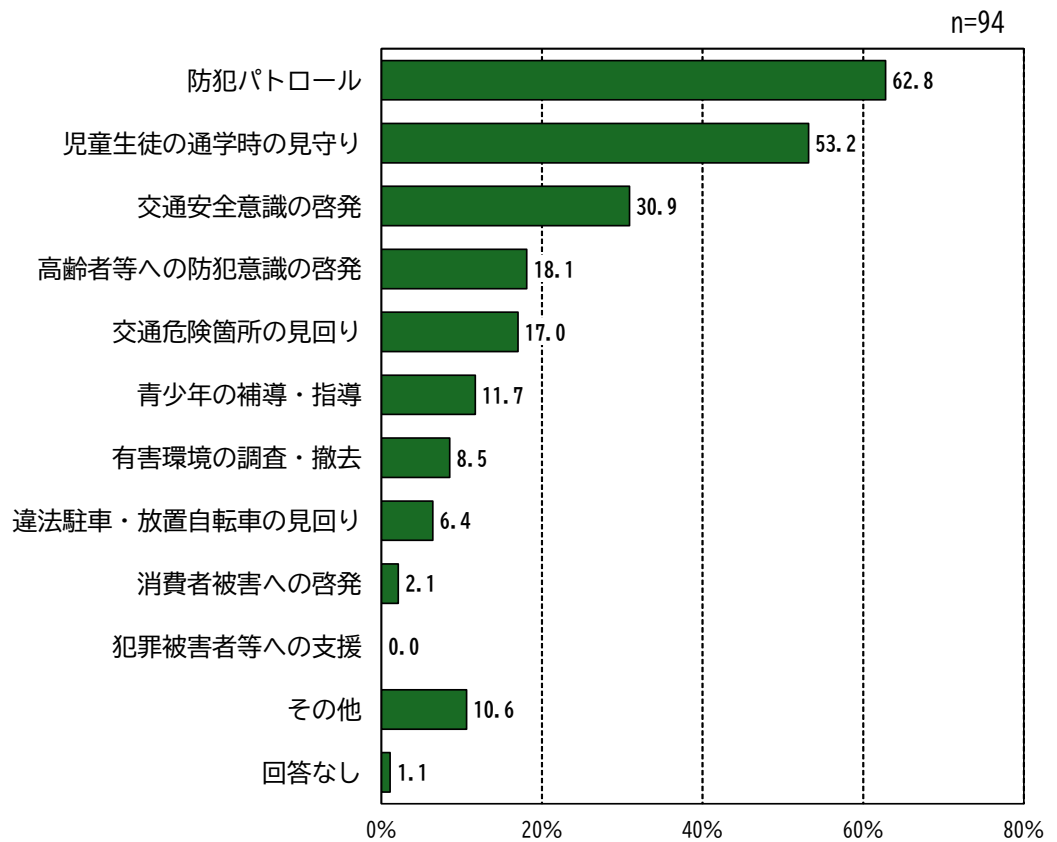
問 1 (2) 会員の概ねの平均年齢

- 「60 代」が 31.9%と最も高く、次いで「70 代以上」(29.8%)、「50 代」(25.5%) などとなっており、回答のあった団体のうち過半数が平均年齢 60 代以上の団体となっています。



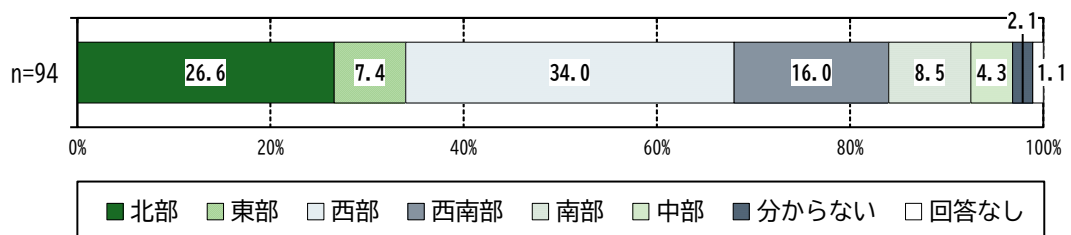
問2 主な活動内容（〇は3つまで）

- 「防犯パトロール」が62.8%と最も高く、次いで「児童生徒の通学時の見守り」(53.2%)、「交通安全意識の啓発」(30.9%) などとなっており、見守りや啓発に関する取組が多くなっています。



問3 主な活動地区

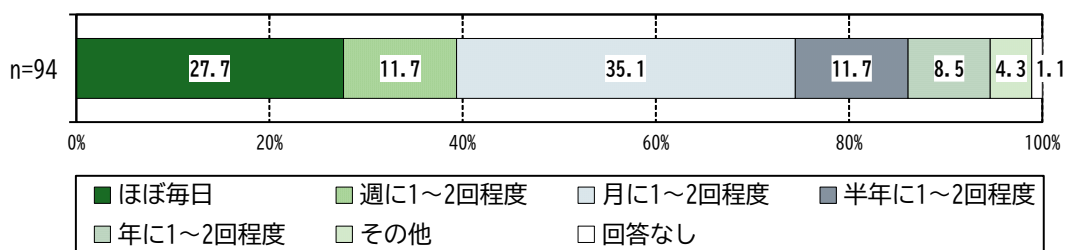
- 「西部ブロック」が34.0%と最も高く、次いで「北部ブロック」(26.6%) などとなっています。



ブロック名	該当地区
1. 北部	富洲原、富田、八郷、下野、大矢知、保々
2. 東部	羽津、海蔵、橋北
3. 西部	川島、神前、桜、三重、県
4. 西南部	常磐、四郷、小山田、水沢
5. 南部	日永、内部、塩浜、河原田、楠
6. 中部	共同、同和、中央、港、浜田

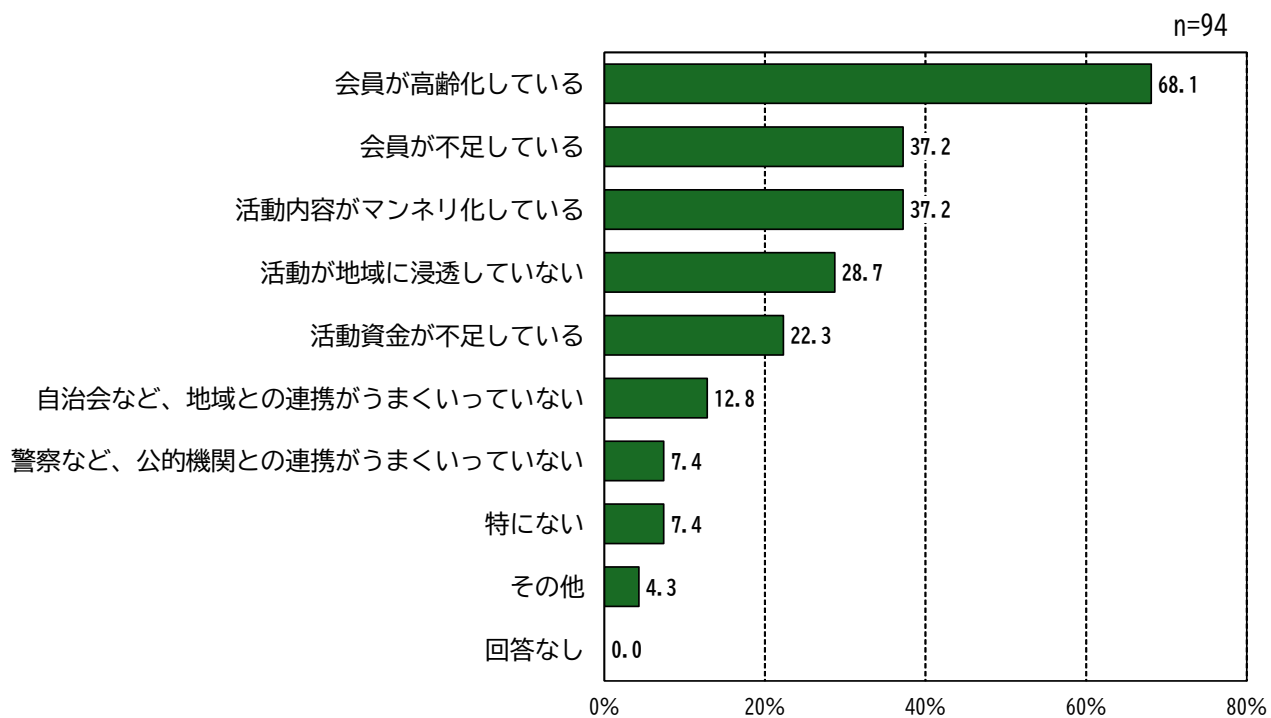
問4 活動頻度

- 「月に1～2回程度」が35.1%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」(27.7%)、「週に1～2回程度」「半年に1～2回程度」(11.7%) などとなっています。



問5 活動における課題 (○はいくつでも)

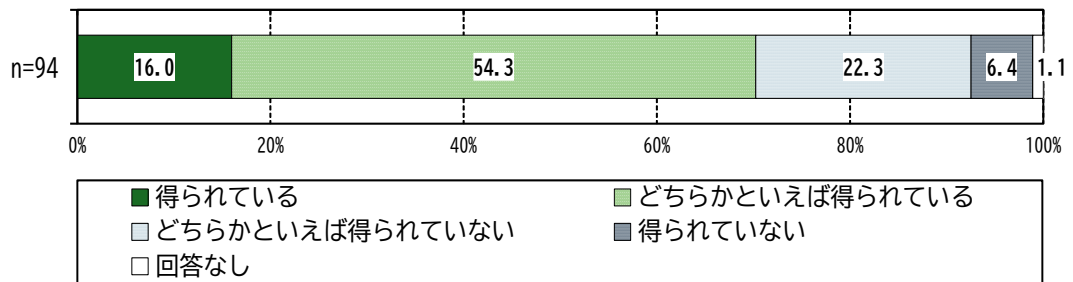
- 「会員が高齢化している」が68.1%と最も高く、次いで「会員が不足している」「活動内容がマンネリ化している」(37.2%)、「活動が地域に浸透していない」(28.7%) などとなり、課題は会員に関することや活動内容に関することなど多岐にわたっています。



【団体の防犯意識について】

問6 安全に関する情報の入手状況

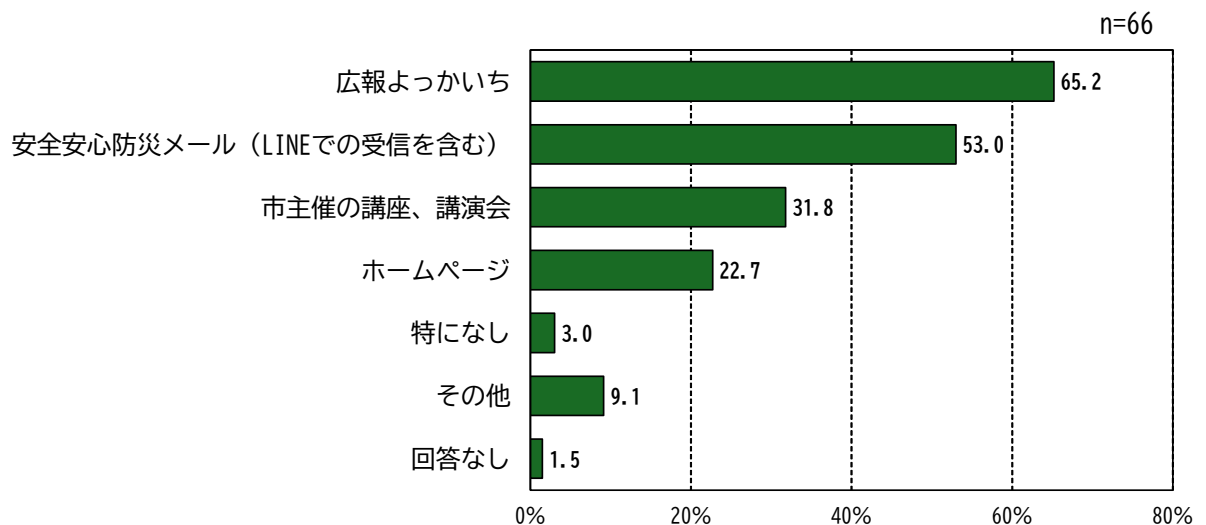
- 「得られている」が16.0%、「どちらかといえば得られている」が54.3%と、安全に関する情報が入手できている団体は70.3%となっています。
- 「得られていない」が6.4%、「どちらかといえば得られていない」が22.3%と、安全に関する情報を入手できていない団体は28.7%となっています。



問7-① 市が発信する安全に関する情報の入手媒体（〇はいくつでも）

※問6で「1.得られている」または「2.どちらかといえば得られている」と答えた方が回答

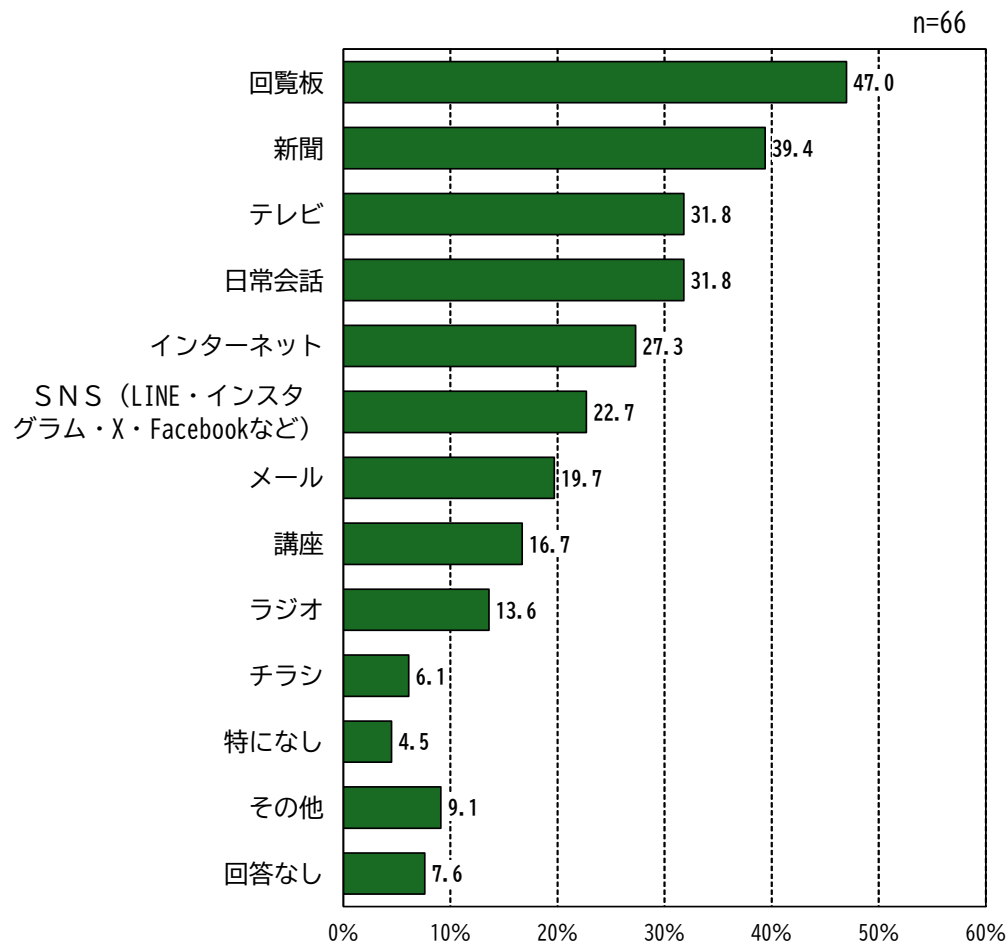
- 「広報よっかいち」が65.2%と最も高く、次いで「安全安心防災メール（LINEでの受信を含む）」（53.0%）、「市主催の講座、講演会」（31.8%）などとなっています。



問 7 - ② 市以外が発信する安全に関する情報の入手媒体（〇はいくつでも）

※問6で「1.得られている」または「2.どちらかといえば得られている」と答えた方が回答

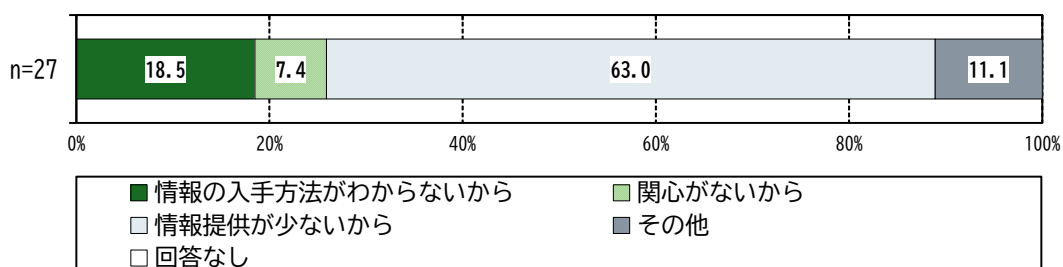
- 「回覧板」が 47.0%と最も高く、次いで「新聞」(39.4%)、「テレビ」「日常会話」(31.8%) などとなっています。
- 一方で、「インターネット」も 27.3%と高くなっています。



問 7 - ③ 安全に関する情報を得られていない理由

※問6で「3.どちらかといえば得られていない」または「4.得られていない」と答えた方が回答

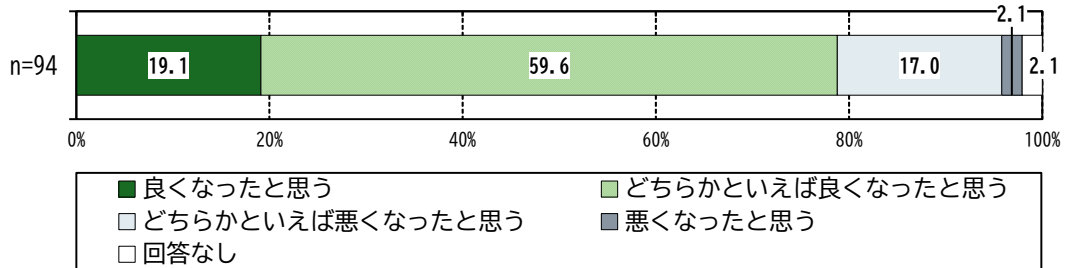
- 「情報提供が少ないから」が 63.0%と最も高く、次いで「情報の入手方法がわからないから」(18.5%)、「関心がないから」(7.4%) などとなっています。



【団体の活動地域の防犯に関する環境について】

問 8 10 年間で地域の治安の状況

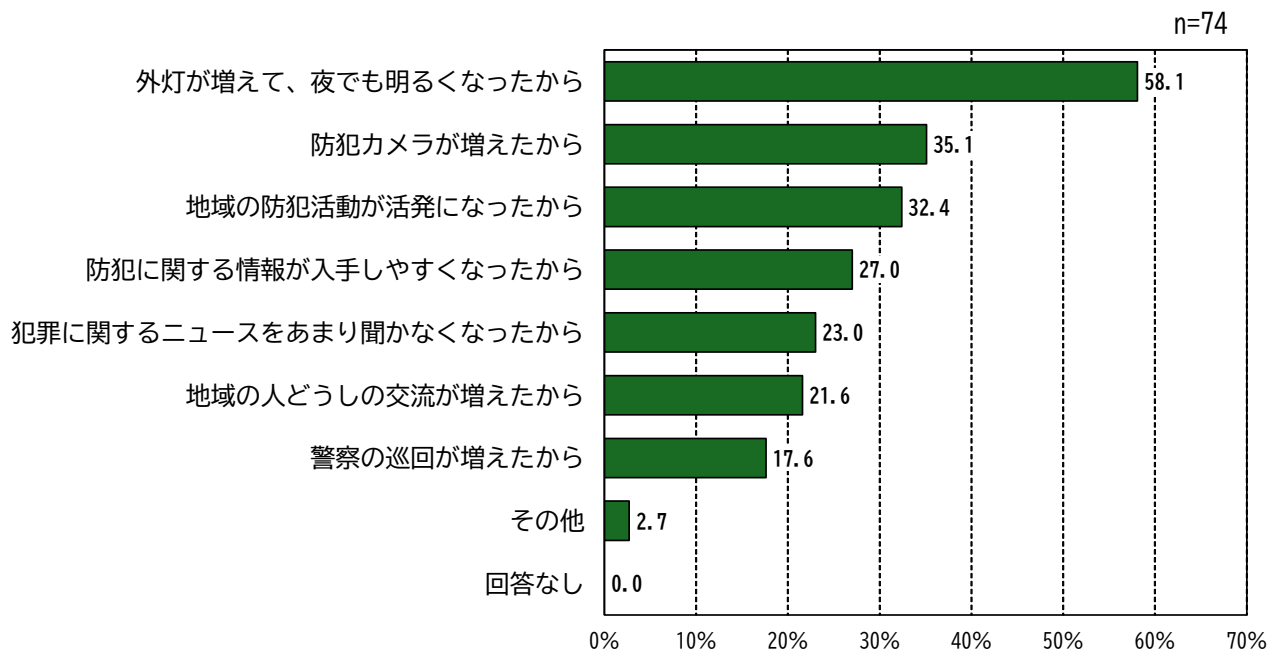
- 「良くなったと思う」が 19.1%、「どちらかといえば良くなったと思う」が 59.6%と、治安が良くなったと思う団体は 78.7%となっています。
- 一方で、「悪くなったと思う」が 2.1%、「どちらかといえば悪くなったと思う」が 17.0%と、治安が悪くなったと思う団体は 19.1%となっています。



問 9 - ① 地域の治安が良くなったと思う理由 (〇は3つまで)

※問8で「1. 良くなったと思う」または「2. どちらかといえば良くなったと思う」と答えた方が回答

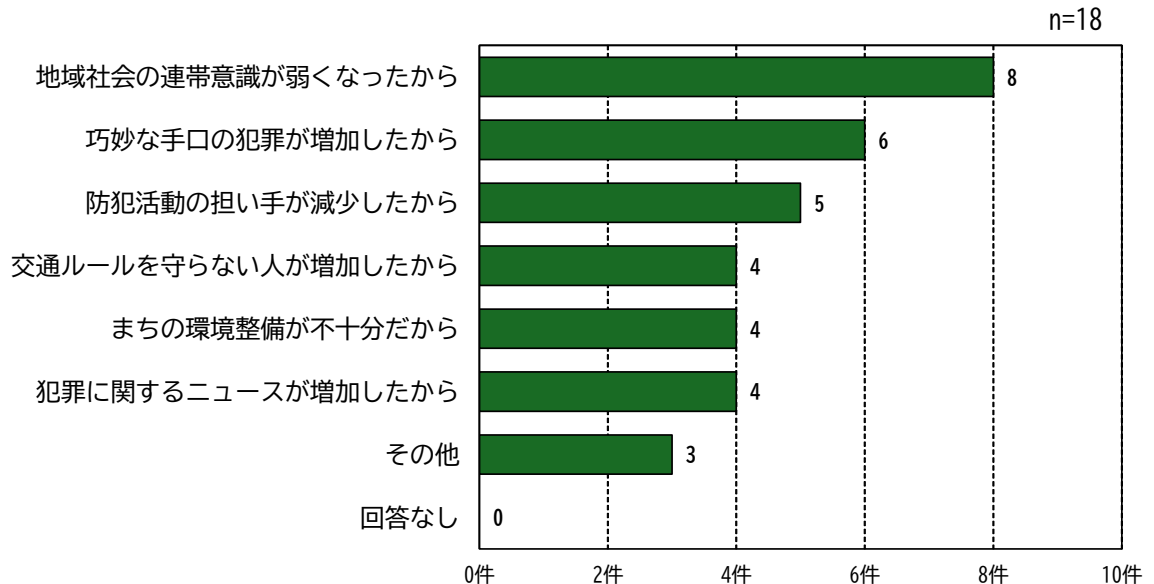
- 「外灯が増えて、夜でも明るくなったから」が 58.1%と最も高く、次いで「防犯カメラが増えたから」(35.1%)、「地域の防犯活動が活発になったから」(32.4%)、「防犯に関する情報が入手しやすくなったから」(27.0%) などとなっており、防犯に関する環境整備や防犯活動・情報の充実を理由に挙げる団体が多くありました。



問 9—② 地域の治安が悪くなったと思う理由（〇は3つまで）

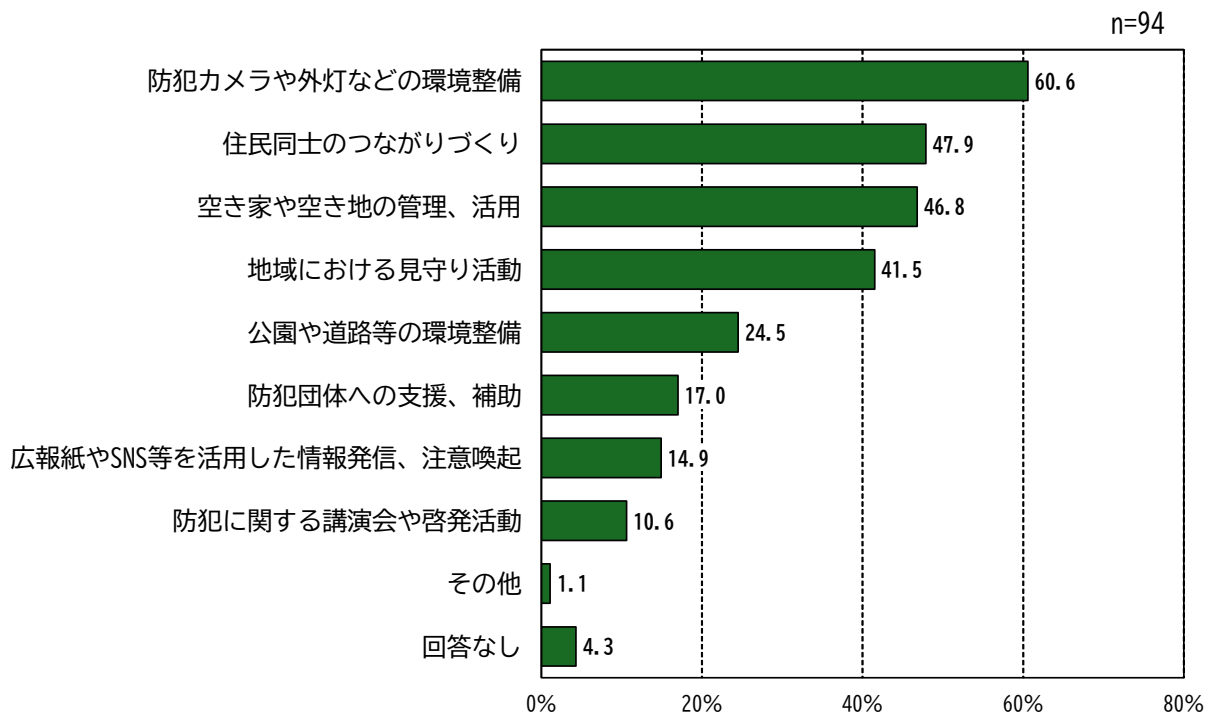
※問8で「3. どちらかといえば悪くなったと思う」または「4. 悪くなったと思う」と答えた方が回答

- 「地域社会の連帯意識が弱くなったから」が8件と最も多く、次いで「巧妙な手口の犯罪が増加したから」（6件）、「防犯活動の担い手が減少したから」（5件）などとなっています。



問 10 犯罪が起きにくい安全なまちに向けて必要な取組（〇は3つまで）

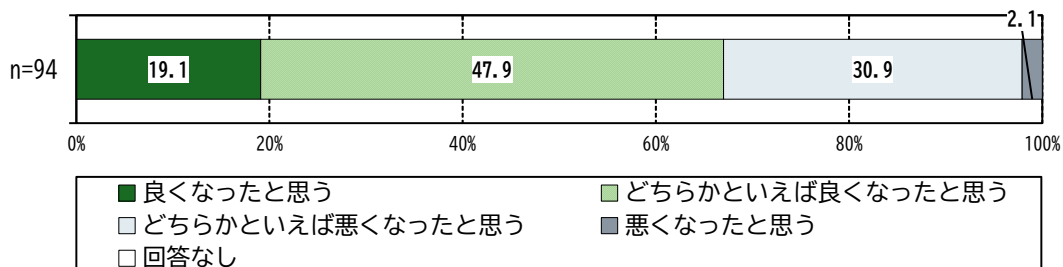
- 「防犯カメラや外灯などの環境整備」が 60.6%と最も高く、次いで「住民同士のつながりづくり」（47.9%）、「空き家や空き地の管理、活用」（46.8%）、「地域における見守り活動」（41.5%）などとなっており、環境整備や地域における防犯意識の必要性を挙げる団体が多くありました。



【団体の活動地域の交通安全について】

問 11 10 年間で地域の交通安全環境の状況

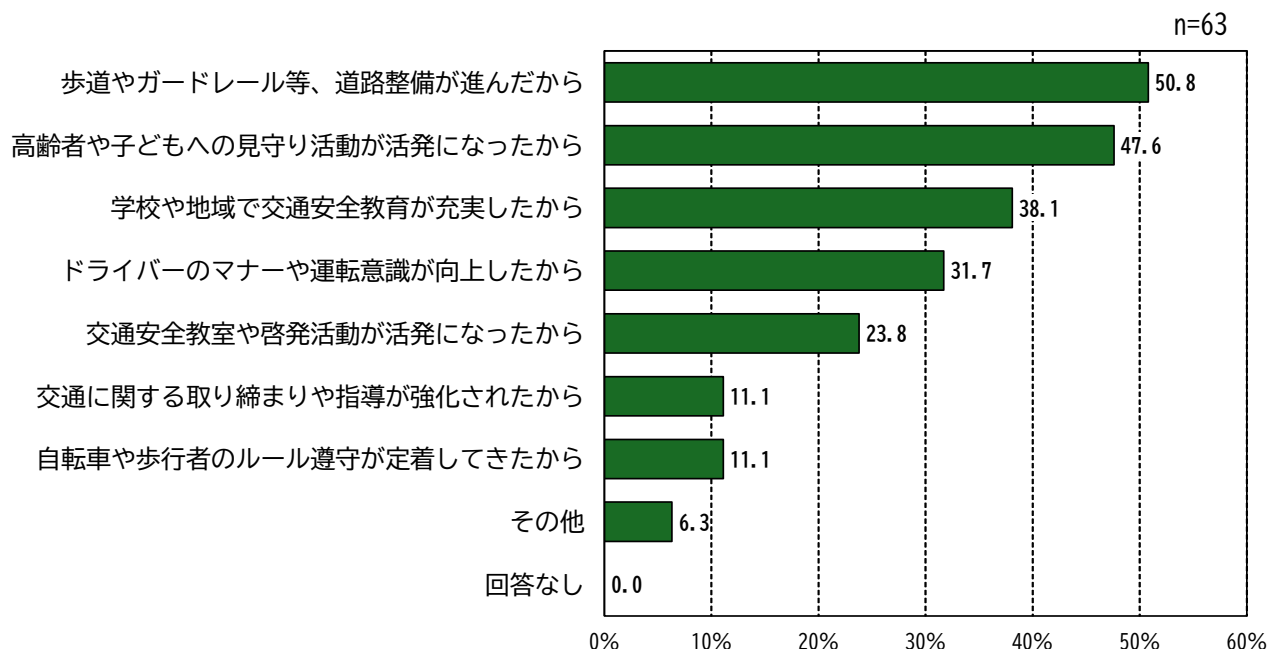
- 「良くなったと思う」が 19.1%、「どちらかといえば良くなったと思う」が 47.9%と、治安が良くなったと思う団体は 67.0%となっています。
- 一方で、「悪くなったと思う」が 2.1%、「どちらかといえば悪くなったと思う」が 30.9%と、治安が悪くなったと思う団体は 33.0%となっています。



問 12-① 地域の交通安全環境が良くなったと思う理由（〇は3つまで）

※問 11 で「1. 良くなったと思う」または「2. どちらかといえば良くなったと思う」と答えた方が回答

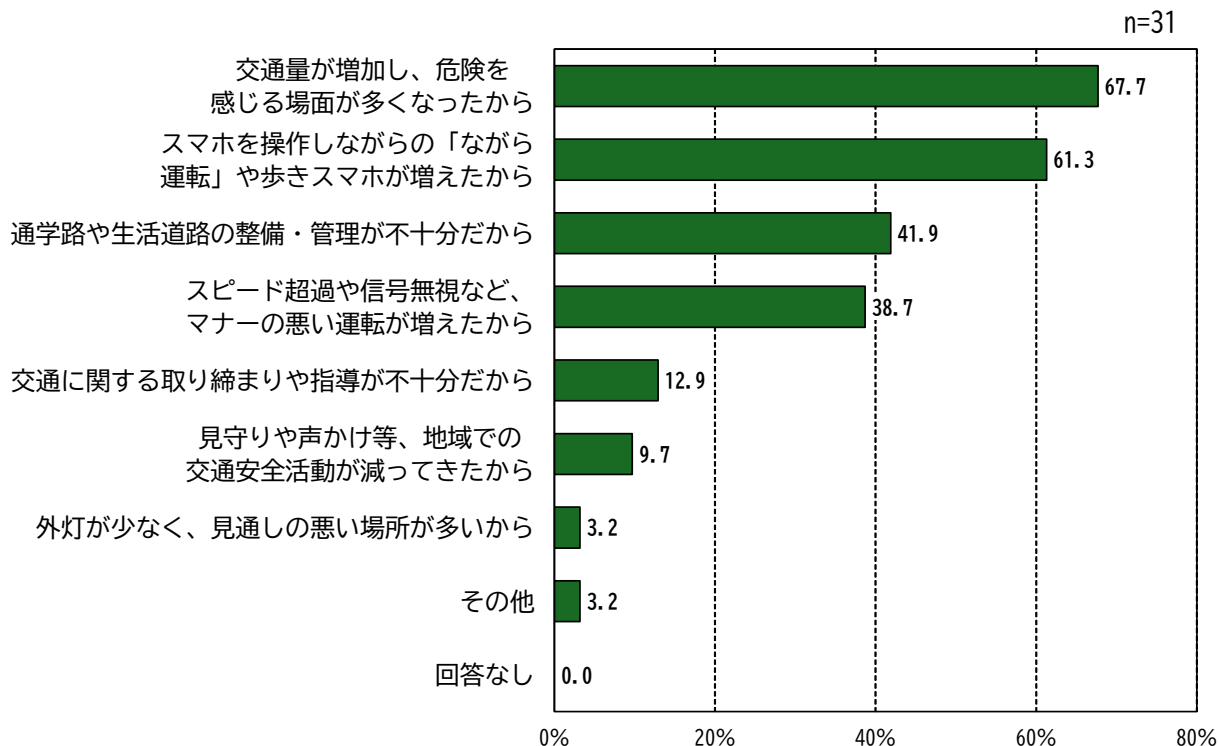
- 「歩道やガードレール等、道路整備が進んだから」が 50.8%と最も高く、次いで「高齢者や子どもへの見守り活動が活発になったから」(47.6%)、「学校や地域で交通安全教育が充実したから」(38.1%)、「ドライバーのマナーや運転意識が向上したから」(31.7%)などとなっています。



問 12—② 地域の交通安全環境が悪くなったと思う理由（〇は3つまで）

※問 11 で「3. どちらかといえば悪くなったと思う」または「4. 悪くなったと思う」と答えた方が回答

- 「交通量が増加し、危険を感じる場面が多くなったから」が 67.7%と最も高く、次いで「スマホを操作しながらの「ながら運転」や、歩きスマホが増えたから」（61.3%）などとなっています。



問 13 交通事故のない安全なまちに向けて必要な取組（〇は3つまで）

- 「道路環境の整備及び改善」が 56.4%と最も高く、次いで「交通マナー、ルール の周知を強化」(46.8%)、「学校や地域での交通安全教育・啓発の充実」(41.5%) などとなっており、ハード整備や個々人の交通安全に対する意識の醸成の必要性を挙げる団体が多くなっています。

